

2007年1月31日発行

## 今回の紙面から（ページと内容）

- 1 会長挨拶
- 2 第24回大会のご案内  
研究発表応募規定の改定について
- 3 ワークショップの企画募集
- 4 理事会・評議員会より
- 5 編集委員会より
- 7 大会運営委員会より  
学会賞選考結果  
「日本英語学会新人賞」論文募集の  
お知らせ
- 9 学生会員の登録継続について

## 会長挨拶

会長 千葉 修司

新しい年を迎え、会員の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

昨年11月に東京大学本郷キャンパスで開催された第24回大会には、大勢の会員の皆様にご参加いただき、各研究発表、シンポジウムおよびワークショップの会場ともに盛り上がりを見せ、おかげで、かなりの成功を収めた大会となったのではないかと自負いたしております。これも、ひとえに、会員の皆様のご協力とご支援のたまものと感謝いたします。とくに、長い期間にわたって、きめ細かい準備を進めて下さった東京大学関係者の皆様と大会運営委員の皆様にご心より感謝申し上げます。2007年度の大会は名古屋大学で開催されることになっていますが、今年もまた、大勢の会員の皆様にご参加くださいますようお願い申し上げます。

裏話になり恐縮ですが、大会開催中、私は会長として役目柄、ほとんどの時間、大会本部に詰めております。毎年一番の楽しみは、大会本部をご訪問下

さる日本英語学会顧問の先生方と、短時間ですが、親しくお話ができるということです。これまで長い間、日本英語学会を支えて来てくださり、今も、私たちを応援して下さる顧問の先生方の存在は、私たち会員ひとりひとりの心の支えになっているのだということに、私自身改めて思い至り、幸せな気分になれるのもこのときです。会長としての役得というものがもし何かあるとしたならば、私の場合は、このことではなかったかと、感謝の気持ちを込めて今思い起こす次第です。

さて、昨年12月に会長選挙が行われ、開票の結果、名古屋大学の天野政千代氏が新しい会長に選出されました。4月からは、新会長、新事務局のもと、一段と充実した学会運営が期待されます。私の会長としての在任期間も、残すところ後わずかとなりました。3年間の在任期間中は、とくに最初のうちは、慣れない身に変だだと、我ながら思われることがいろいろとわき起こり、対処するのに苦労した思いがありましたが、幸いにも、身を粉にして働いて下さる有能な事務局メンバーに恵まれ、また、いろいろと貴重なアドバイスを授けて下さる理事・監事・評議員の方々や、なかば心配顔で応援して下さる会員の皆様の温かいご支援のおかげで、なんとか、ここまで航海を続けることができました。また、大会運営委員および編集委員として、学会の重要な仕事をこれまで献身的にこなしてきて下さった大勢の方々にも、ずいぶんと助けていただきました。

会員のみなさまのご支援により、学会の財政危機を何とか乗り切ったとはいうものの、決して安泰というわけではありません。科研費助成金も年ごとに

減額されるようになり、また、国立大学の法人化に伴い、大会会場・施設使用料を含む大会開催のための費用も、かなりかさむようになってきました。財政面以外のところでも、これから先、いろいろと創意工夫を施し、これまでのやり方にさらなる改良を加えて、今後、学会が直面する様々な問題に対処していかなければなりません。とくに、最近、学会および学会員を取り巻く状況が大きく変化してきているのに伴い、従来どおりの学会運営や学会活動のやりかたでは十分対処できないような問題も起こり始めています。たとえば、従来、日本英文学会の開催日に合わせて理事会や編集委員会を開いてきましたが、日本英語学会会員ではあっても、日本英文学会会員ではない方々が増えてきた昨今では、このような、いわゆる「相乗り」方式は、当初のねらい通りには行かなくなり、逆に、問題点をも生み出す状況となってきました。そこで、編集委員会の場合は、思いきって、昨年よりこの方式を廃し、独自の日程で編集委員会を開催することといたしました。このような様々な問題を克服するために、昨年夏に、理事の方々、大会運営委員長および編集委員長にも集まっていたいで、懇談会を開きました。いろいろなことを話し合いましたが、とくに、理事会や各種委員会の会議日程や、新人賞応募論文締め切り日などを含む、英語学会全体の従来の年次スケジュールを見直す必要があるのではないかとの合意に達し、年次スケジュールの再検討をはかる委員会を設置しました。一方、機関誌 *English Linguistics* の電子ジャーナル化を検討する小委員会も立ち上げました。4月からは、新しい会長のもと、事務局もバトンタッチということになりますが、これを契機に、今後少しでも、学会運営・事務局運営がよりスムーズにいくようになればと願っております。すでに、理事会レベルで、幾つかの具体案について検討することができましたので、そのうち、実行に移される手は

ずになっています。そのうちのひとつは新人賞に関するもので、この4月より、電子版応募論文の受付を開始することにしました。応募要領について詳しいことは、近く発行予定の会員名簿（新版）および学会ホームページに掲載いたしますので、それをご覧下さり、ぜひ、多くの若手研究者の皆様が、ごぞって応募下さいますようお願いいたします。

大学や学会を取り巻く状況の大きな変化にも柔軟に対応できるような日本英語学会の体制作りを、今後も模索していかなければなりません。会員のみなさまのご協力を切にお願い申し上げる次第です。新会長のもと、日本英語学会が今後ますます発展していきますようお祈りいたします。皆様、3年間、ご支援下さいましてありがとうございます。引き続き、新しい会長および事務局のご支援もどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 第25回大会のご案内

第25回大会は次の通り開催される予定です。

日時： 2007年11月10日（土）・11日（日）

場所： 名古屋大学（東山地区）

（〒464-8601 名古屋市千種区不老町）

会員の方は奮って研究発表にご応募下さい。応募書類は、封筒に「研究発表応募論文在中」と朱書の上、4月1日（日）（必着）までに日本英語学会事務局（住所は奥付参照）へ郵送して下さい。

なお、このたび応募規定が一部改定されました（以下の記事参照）ので、応募される方は新規定をご確認のうえ、遵守されるようお願いいたします。

### 研究発表応募規定の改定について

昨年12月開催の大会運営委員会において研究発表応募規定の一部が改定されました。下記をご参照下さい。新規定の全文は2007年3月発行予定の会員名簿最新版と当学会ホームページ（URLは本紙奥付参照）に掲載されています。応募論文や添付書類、大

会資料原稿, *Conference Handbook* 原稿, JELS 原稿等の作成例も新たなものが掲載され, ホームページからダウンロードできるようになりましたので, あわせてご参照下さい。

### 研究発表応募規定新旧対照表

(主要改定項目・部分のみ)

2006年12月3日改定

	旧	新
第 6 項 (応募論文書式等)	6. [前略] 参考文献表は上記枚数に含めず, <u>別に付ける</u> . [後略]	6. [前略] 参考文献表は上記枚数に含めず, <u>ページを改めること</u> . [後略]
第 6 項 (応募論文書式等)	6. [前略] 氏名・所属は書かず, 本文でも応募者の名前を示唆するような書き方は避ける.	6. [前略] 氏名・所属は書かず, 本文でも応募者の名前を示唆するような書き方は避ける. <u>要旨本文の末尾に字数または語数を明記すること</u> .
第 7 項 (応募添付書類記載事項等)	7. 上記 6 とは別の A4 (またはレターサイズ) 用紙に, 論文題名・氏名 (ふりがな)・所属・連絡先住所・電話番号・e-mail アドレス・審査希望分野 (以下参照) を明記し, 2部提出する (コピー可). [後略]	7. 上記 6 とは別の A4 (またはレターサイズ) 用紙に, 論文題名・氏名 (ふりがな)・ <u>会員種別 (通常・学生・維持)</u> ・所属・連絡先住所・電話番号・e-mail アドレス・審査希望分野 (以下参照) を明記し, 2部提出する (コピー可). [後略]

### ワークショップの企画募集

シンポジウムが大会運営委員会の企画であるのに対して, ワークショップは, 会員の自主的な企画・運営によって, 特定のテーマについて発表と自由な討論をしていただく場です。第 24 回大会では皆様のご協力により, 6つのワークショップが開催されました。本年の第 25 回大会でも 11月10日(土)の午前9時30分から12時までをワークショップにあてる予定です。

企画・運営を希望される方は, A4 用紙で企画書

(ワークショップのタイトル, 企画者の氏名・所属, 1000~2000字 (英文の場合1行65字×1ページ25行で2~4枚, または600~1200語) 程度の趣旨) を5部作成 (コピー可) し, 連絡先 (連絡先住所, 電話番号, e-mail アドレスなど) を明記の上, **3月31日(土) (必着)** までに上記事務局宛にお送り下さい。封筒には「従来型ワークショップ企画書」と朱書して下さい。なお, 非会員の企画者は遅くとも応募時に入会する必要があります。(入会方法は当学会ホームページをご覧ください。) なお, 内容に関して, 研究発表ならびに *English Linguistics* に応募中または掲載予定のものをワークショップで重複して発表することはできません。

採用された企画には, 学会から1件につき2万円の助成金が支給されます。応募された企画は大会運営委員会が検討し, 採用企画については6月に全会員にお知らせする予定です。ワークショップで発表を希望される方は, これをご覧になり, 企画者に直接連絡をとっていただくこととなります。多数の応募をお待ちしています。

### Student Workshop について

ワークショップをさらに活発にするために, 従来型のワークショップと並行して, 第 20 回大会から Student Workshop が開催されるようになりました。Student Workshop は, 大学院生 (および大学院を終えた研究生や非常勤講師など) が中心となって企画・運営するものです。一つの大学だけではなく, 複数の大学にまたがる研究者の連携も可能です。各会場の参加人数を 50 名程度に抑え, 発表者と聴衆がより自由に話し合えるようにします。発表者は大学院生ないし研究生, 非常勤講師などですが, 司会者には教員を加えることもできます。Student Workshop が, 異なる大学の院生間の学問的な交流を促す機会になれば, と考えています。英語学に関

わるテーマであれば、理論や分野は問いません。

応募希望の方は、A4 用紙で企画書（ワークショップのタイトル、司会者と発表者の氏名・所属、1000～2000 字（英文の場合 1 行 65 字×1 ページ 25 行で 2～4 枚、または 600～1200 語）程度の趣旨）を 5 部作成し（コピー可）、連絡先（連絡先住所、電話番号、e-mail アドレスなど）を明記の上、3月31日（土）（必着）までに上記事務局宛にお送り下さい。封筒には「Student Workshop 企画書」と朱書して下さい。応募時に学生会員もしくはそれに準じる会員（非常勤講師など）であることが条件です。（入会方法は学会ホームページをご覧ください。）なお、内容に関して、研究発表ならびに *English Linguistics* に応募中または掲載予定のものを Student Workshop で重複して発表することはできません。

採用された企画には、学会から 1 件につき 3 万円の助成金が支給されます。採用企画については 6 月に全会員にお知らせする予定です。Student Workshop での発表を希望される方は、これをご覧になり、企画者に直接連絡をとっていただくこととなります。多数の応募をお待ちしています。

なお、従来型 Workshop と Student Workshop のいずれにおいても、企画者以外の発表者に非会員が含まれていても構いません。また、発表者と司会者の全員が決まっていなくても応募できます。発表者がすでに決定もしくは予定されていて、採用後、新たに発表者を募る予定のない場合は、応募の際にその旨明記するようお願いいたします。

## 理事会・評議員会より

### ○ 会計

2006 年度収支中間報告書について事務局財務担当書記より説明があり、理事会および評議員会において承認されました。

### ○ 役員の変動

#### ・会長（新任）

任期満了に伴う会長選挙が郵送により行われ、選挙管理委員の天津由紀雄氏と高見健一氏による開票（2006年12月17日（日）実施）の結果、天野政千代氏（名古屋大学）が会長に選出されました。新会長の任期は2007年4月1日から2010年3月31日までの3年間です。

#### ・評議員（退任）

2007年3月31日で32名（物故者2名を含む）の評議員の方々のご退任されます。長い間評議員を務めていただきまして有難うございました。

秋元実治氏（青山学院大学）、井出祥子氏（日本女子大学）、今井光規氏（摂南大学）、岩倉國浩氏（広島大学）、上 紀子氏（神戸女学院大学）、大塚 巖氏（立正大学）、河上誓作氏（神戸女子大学）、久保内端郎氏（駒澤大学）、斎藤興雄氏（明治学院大学）、芝原宏治氏（関西外国語大学）、島田 守氏（龍谷大学）、千葉修司氏（津田塾大学）、唐須教光氏（慶應義塾大学）、豊田昌倫氏（関西外国語大学）、中右 実氏（麗澤大学）、中野弘三氏（愛知淑徳大学）、西尾道子氏（お茶の水女子大学）、西川盛雄氏（熊本大学）、西山佑司氏（明海大学）、長谷川存古氏（関西大学）、橋本 功氏（信州大学）、原口庄輔氏（明海大学）、平河内健治氏（東北学院大学）、増田 豊氏（松山大学）、町田尚子氏（駒澤大学）、宮井捷二氏（創価大学）、宮川幸久氏（お茶の水女子大学）、山崎真稔氏（玉川大学）、吉野利弘氏（立教大学名誉

教授)、米倉 綽氏 (安田女子大学)

・評議員 (物故者)

長い間評議員としてお務めいただきました以下のお二人が亡くなりました。心よりご冥福をお祈りいたします。

光延明洋氏 (東海大学)

吉田恵以子氏 (早稲田大学)

・評議員 (新任)

次の34名の方々が新評議員として新たに委嘱されることになっています。任期は2007年4月1日より2010年3月31日までの3年間です。

青山 隆氏 (関西大学)、浅野一郎氏 (宇都宮大学)、綾野誠紀氏 (三重大学)、生田少子氏 (明治学院大学)、石川 潔氏 (法政大学)、井上逸兵氏 (慶應義塾大学)、牛江ゆき子 (お茶の水女子大学)、大石正幸氏 (東北学院大学)、大門正幸氏 (中部大学)、大沢ふよう氏 (東海大学)、大室剛志氏 (名古屋大学)、奥野忠徳氏 (弘前大学)、小田眞幸氏 (玉川大学)、加藤鉦三氏 (信州大学)、酒井 弘氏 (広島大学)、佐藤真二氏 (駒澤大学)、高橋幸雄氏 (盛岡大学)、立石浩一氏 (神戸女学院大学)、田中七郎氏 (松山大学)、都築雅子氏 (中京大学)、登田龍彦氏 (熊本大学)、永浜雅章氏 (創価大学)、中村浩一郎氏 (広島女学院大学)、二枝美津子氏 (京都教育大学)、西岡宣明氏 (九州大学)、東森 勲氏 (龍谷大学)、樋口 (後藤) 万里子氏 (九州工業大学)、平賀正子氏 (立教大学)、藤井洋子氏 (日本女子大学)、松原史典氏 (高知大学)、守屋哲治氏 (金沢大学)、家口美智子氏 (摂南大学)、遊佐典昭氏 (宮城学院女子大学)、渡辺雅仁氏 (明海大学)

・監事 (退任)

監事の八木孝夫氏 (東京学芸大学) が任期満

了に伴い、監事を退任されます。これまで監事をお務めいただき、お礼を申し上げます。

・監事 (新任)

上記監事退任に伴い、新たに伊藤たかね氏 (東京大学) が会長により監事に推薦され、承認されました。委嘱期間は、2007年4月1日より2010年3月31日までとなります。

・大会運営委員長 (退任)

昨年12月をもって、大沢ふよう氏 (東海大学) が大会運営委員長を任期満了で退任されました。1年間委員長をお務めいただき、ありがとうございました。

・大会運営委員長 (新任)

昨年12月15日付で、時崎久夫氏 (札幌大学) が大会運営委員長に選出されました。任期は本年12月14日までの1年間です。

## 編集委員会より

◇ *English Linguistics* 第23巻2号 (2006年秋号) の刊行について

EL 23. 2 (秋号) が刊行されました。一般論文4編、Notes & Discussion 3編、書評論文7編が掲載されています。会員の皆様には、昨年12月中旬に送付されております。

◇ *English Linguistics* 第24巻1号 (2007年春号) の応募論文の査読結果について

EL 24. 1 (春号) に対する応募論文の査読結果は、次の通りです。今回の号から、4ヶ月書き直しとなった論文についての「審査中」が加わります。なお、書評論文には4ヶ月書き直しはありませんので、「審査中」は該当しません。

	応募数	採用	不採用	審査中
一般論文	13	2	5	6
N&D	2	1	1	0
書評論文	10	9	1	-
合計	25	12	7	6

◇ **English Linguistics** 第 24 巻 2 号 (2007 年秋号) への投稿について

2007 年 12 月発行の *English Linguistics* 第 24 巻 2 号の原稿締切は、2007 年 4 月 1 日 (日) (必着) です。2007 年 3 月発行予定の会員名簿最新版および学会ホームページに記載されている投稿規定及び書式に関する注意事項を通読され、規定を遵守してご投稿下さい。

なお、このたび投稿規程が一部改定されました(以下の記事参照)。応募される方は新しい規定に則ってご投稿下さいますようお願い申し上げます。

特に論文の長さ(第 3 項参照)については、規程違反が甚だしい場合、内容の如何に関わらず不採用となりますので、十分ご注意下さい。

**English Linguistics** 投稿規定の

改定について

2006 年 11 月に開催された第 62 回編集委員会において、研究発表応募規定の一部が改定されました。下記をご参照下さい。新規定の全文は 2007 年 3 月発行予定の会員名簿と学会ホームページに掲載されていますので、あわせてご覧下さい。

**English Linguistics** 投稿規定新旧対照表

(主要改定項目・部分のみ)

2006 年 11 月 3 日改定

	旧	新

第 1 項	<p>1. 本誌は日本英語学会の機関誌として年 2 回発行する。論文は英語で書かれたものとし、応募者は原則として会員に限る。論文は未公開のものに限る。ただし、すでに口頭で発表したもの、または <i>JELS</i> やワーキングペーパー、紀要などに掲載された論文に相応の修正・発展を加えたものは、その旨明記している場合に審査の対象となりうる。日本英語学会大会で発表が予定されているものは、発表前の投稿を認めない。原稿の締切期日は 4 月 1 日と <b>10 月 1 日</b> (いずれも必着) とする。</p>	<p>1. 本誌は日本英語学会の機関誌として年 2 回発行する。論文は英語で書かれたものとし、応募者は原則として会員に限る。論文は未公開のものに限る。ただし、すでに口頭で発表したもの、または <i>JELS</i> やワーキングペーパー、紀要などに掲載された論文に相応の修正・発展を加えたものは、その旨明記している場合に審査の対象となりうる。日本英語学会大会の研究発表・シンポジウム・ワークショップで発表が予定されているものは、発表前の投稿を認めない。原稿の締切期日は 4 月 1 日と <b>9 月 20 日</b> (いずれも必着) とする。</p>
第 3 項	<p>3. <u>論文の長さ(引用文献・脚注を含む)は原則として A4 判ダブルスペース 40 枚以内(1 頁 25 行, 1 行 70 ストローク以内)とし、上下左右に 2.5cm 以上のマージンを取る。別に冒頭に 100 語程度の英文の Abstract を添える。Notes and Discussion はダブルスペース 12 枚以内とし、Abstract は不要とする。図形等は当該ページの中に組み込む。脚注は別</u></p>	<p>3. <u>論文の長さ(引用文献・脚注を含む)は原則として A4 またはレターサイズ 40 枚以内(1 頁 25 行)とし、12 ポイントの活字を使用して、上下左右に 2.5cm (1 インチ) のマージンを取る。別に冒頭に 100 語程度の英文の Abstract を添える。Notes and Discussion は同様の書式で 12 枚以内とし、Abstract は不要とする。図表等は当該ページの中に組み込む。脚注は別</u></p>

	紙にまとめて、本文、引用文献に続けて通し番号をつける。本文のタイトルの下に、論文の内容を集約するキーワードを3～5語句程度で示す。	紙にまとめて、本文、引用文献の後に続ける。本文、引用文献、脚注については、各ページの下中央を通してページ番号をつける。本文のタイトルの下に、論文の内容を集約するキーワードを3～5語句程度で示す。(書式見本参照)
第5項	原稿は3部(コピーで可)を日本英語学会事務局(〒166-0003 東京都杉並区高円寺南2丁目44-5 桐原書店内)に送付する。封筒の表に「投稿論文在中」と朱書する。原稿は返却しない。	原稿(本文、表紙、(一般論文の場合には) Abstract)は3部(コピーで可)を〒113-0023 東京都文京区向丘1丁目5番2号 水上ビル4F 開拓社出版部編集課 EL 係に送付する。封筒の表に「投稿論文在中」と朱書する。原稿は返却しない。

#### ◇ *English Linguistics* 投稿規定の主な変更点

##### (1) 送付先

上記「*English Linguistics* 投稿規定の改定について」でお分かりのように、今回の重要な変更の一つに投稿論文送付先の変更があります。これまで *EL* 投稿論文の送付先は「日本英語学会事務局」(桐原書店内)でしたが、今回の *EL* 投稿規定の改定に伴い、以下の「開拓社」内の *EL* 係に送付先が変更されます。

〒113-0023

東京都文京区向丘1丁目5番2号 水上ビル4F  
開拓社出版部編集課 *EL* 係

従って、2007年4月1日締切分以降の投稿論文は、

「一般論文」、「Notes and Discussion」、  
「(従憑による)書評論文」の全てに関して、送付先が開拓社となります。(但し、「大会の研究発表応募」の送付先は従来通り、「日本英語学会事務局」(桐原書店内)のままですので、お間違えのないよう、ご注意ください。)

これまで長年に渡り *EL* 投稿論文の窓口になって頂いた桐原書店に深くお礼申し上げます。また、開拓社にはこれまで *EL* の編集・出版・販売をお願いしてきましたが、今後は *EL* 投稿論文の受付もお願いすることになります。

##### (2) 締切

次に、年二回ある投稿論文の締切のうち、秋の締切日が変更になります。春の4月1日については従来通りですが、秋は従来の10月1日から10日早まって、9月20日締切となります。この締切日の変更も、送付先の変更と同様に2007年度から適用されます。一般論文・Notes and Discussionを投稿される際にはご注意ください。

##### (3) ページ設定

最後になりますが、投稿規定新旧対照表にもありますように、各頁の書き方が「1頁25行とし、12ポイントの活字を使用して、上下左右に2.5cm(1インチ)のマージンを取る」のように変更になります。

以上の点については、論文投稿の際、くれぐれもご注意ください。

### 大会運営委員会より

#### □ 大会運営委員会の構成

昨年12月より大会運営委員会の構成は次の通りとなりました。

(委員長) 時崎久夫氏

(副委員長) 田端敏幸氏

(委員) 越智正男氏, 杉崎敏司氏, 吉村あき子氏,  
井上逸兵氏, 小野尚之氏, 谷口一美氏 (以上  
留任) 石川一久氏, 奥 聡氏, 加賀信広氏, 武  
田修一氏 (以上新任)

## のお知らせ

第 5 回 (2007 年度) の「新人賞」論文を以下の要  
領で募集しますので、奮ってご応募下さい。

### □ 第 25 回大会のシンポジウムの企画について

現在準備が進行中です。詳しい内容は次号の  
『え〜ごがく』(No. 47)でお知らせいたします。

### □ JELS 24 について

JELS 24 は、現在、第 24 回大会運営委員長の  
大沢ふよう氏に編集をしていただいています。第  
24 回大会で購入の申し込みをしていただいた方  
に、3 月末にお届けする予定です。

### □ 第 24 回大会の報告

第 24 回大会は、2006 年 11 月 3 日 (土)・4 日 (日)  
の両日、東京大学 (本郷キャンパス) において開  
催されました。本大会では、7 つのシンポジウム、  
28 の研究発表、6 つのワークショップが行われ  
ました。大会 2 日間で 678 名の参加者があり、  
盛会裏に終えることができました。JELS 24 につ  
いては 221 部の購入申し込みがありました。今回  
も各出版社から書籍の展示をしていただき、本  
大会では 28 社の展示がありました。大会運営を  
支えて下さった開催校の先生方や大会運営委員の  
先生方、そして参加された会員の皆様のご協力に  
対して、心より御礼申し上げます。また、今回も  
大会運営に関する貴重なご意見を多数いただきあ  
りがとうございました。今後の大会運営の参考に  
させていただきます。

## 学会賞選考結果

### ○ 新人賞選考委員会より

2006 年度日本英語学会新人賞には、2 編の応募  
がありましたが、残念ながら受賞作に該当するもの  
はありませんでした。

## 「日本英語学会新人賞」論文募集

応募資格：締切日の時点で 37 歳以下、または大学院  
修士課程修了 10 年以内の日本英語学会会員。

内容：主に英語の共時的・通時的研究、言語の一般  
理論に関する研究、または英語と他言語(特に日  
本語)の比較研究などを扱ったもの。

対象：独創性、発展性に富む未刊行論文。受賞の対  
象は原則として年度 1 篇とするが、佳作も表彰  
の対象とする。受賞論文(佳作論文も含む)は、  
学会誌 *English Linguistics* に掲載される。

表彰：受賞者に対しては、賞状とともに記念品と副  
賞 (10 万円) が総会で授与される。また、佳作に  
対しては、賞状とともに記念品が贈呈される。

枚数・書式：*English Linguistics* の一般論文投稿規  
程に従う。

応募方法：原稿送付方法が変更になりますので、詳  
しくは、下記※および学会のホームページをご  
覧下さい。

締切：2007 年 6 月 30 日必着 (変更になりました。ご  
注意ください。)

結果通知：選考結果は 9 月中旬までに応募者に通知  
する。

※ 今年度より、新人賞応募論文の電子メールによ  
る受付を開始いたします。応募論文送付のためのア  
ドレスは [shinjin@kaitakusha.co.jp](mailto:shinjin@kaitakusha.co.jp) です。基本的  
には電子版による応募といたしますが、やむを得ない  
場合には、郵送による応募も可といたします。ただ  
し、このアドレスは、2007 年 4 月 1 日以降に有効と  
なりますので、ご注意ください。なお、応募に関する  
細目については、今年 3 月発行予定の会員名簿最新



版および学会ホームページに掲載される「新人賞応募に関する細則」改訂版をご覧ください。

## 2006 年度収支中間報告

2006 年度収支中間報告ファイル挿入

### 事務局より

○ 数見 由紀子氏よりご寄付をいただいております。誠にありがとうございました。お礼を述べるのが大変遅くなりましたことをお詫びいたします。

#### ○ 除名措置について

規定に従い、2年以上会費を滞納された会員の除名を行わせていただきました(右記「会費の納入のお願い」参照)。会費の督促などで皆様にはご迷惑をおかけしたかもしれません。お詫びさせていただくとともに、みなさまのご理解・ご協力に対してお礼を申し上げます。

#### ○ 学生会員の登録継続について

2006年度に引き続き2007年度も学生会員としての登録を希望される方は、以下の要領でお申し出下さい。申告期間の終了直後に2007年度の会員種別を確定し、会費請求をさせていただきますので、申告期限内に申告下さい。本年度は申告方法の変更周知のため年間を通して受け付けておりましたが、事務手続きが煩雑になるのを避けるため申告期限内にお手続き下さいますよう皆様のご協力をお願いいたします。

◇申告資格：「学生」の意味を広義に解釈し、研究生・聴講生・専任の勤務を持たない大学院修了者および外国の大学の日本校の学生もこれに含まれるものとします。

◇申告期間：4月1日より4月25日(必着)

◇申告方法：会員番号・氏名・4月以降に在籍する学校の名称を明記した用紙に、4月以降(も)学生であることを証明するに足る下の(1)～(4)のいずれかの書類を添付して、事務局宛(奥付参

照)に「学生会員登録継続希望」と必ず朱書の上郵送して下さい。

- (1) 在籍する学校の発行する在学証明書
- (2) 学生証のコピー
- (3) 進学する学校・課程の合格通知のコピー
- (4) 指導教員(所属明記)の署名(捺印) [必要に応じて説明の言葉を加える。]

なお、専任の勤務を持たない大学院修了者は、元指導教員(あるいはそれに類する立場の教員)より必要に応じて説明の言葉を書いてもらい、それに署名(捺印)していただいたものを提出して下さい。

いずれの場合にも、必ず封書でお願いします。なお、申告された後、事情の変更が生じた場合には、事務局にお申し出下さい。何か不明な点がございました場合も事務局までご連絡下さい。

#### ○ 会費の納入のお願い

今年度の会費をまだ納入しておられない方は、学会支援機構から送られました振込用紙で、至急納入して下さいますようお願いいたします。会費を2年間滞納されますと、会員規定第3条第4項により自動的に退会扱いとなりますので、ご注意下さい。

#### ○ 入退会希望、住所等の変更について

これらについては、学会支援機構に直接電話/Faxあるいは文書で知らせるか、または、学会ホームページからメールにてお願いします。

#### ○ 訂正とお詫び

先の第24回大会研究発表の司会をおつとめいただいた有村兼彬氏のご所属が「大会資料・プログラム」とポスターに誤って「甲南女子大学」と記載されておりました。正しくは「甲南大学」です。謹んで訂正し、お詫び申し上げます。

#### ○ お忘れ物のご案内

先の第24回大会の折に、筆記用具一式の入った筆入れ(黒・布製)のお忘れ物が届けられております。事務局で保管しておりますので、お心当たりのある方はご連絡下さい。

## 編集後記

『え〜ごがく』最新号は諸事情により発行が遅れ

ましたが、ようやく皆様のお手元にお届けすることができました。

今年3月をもちまして現事務局の任期が終了いたします。最後の1年間だけでも、秋の大会、各種委員会に加えて、会長選挙、各種応募規定の改定、会員除名、会員名簿作成、さまざまな電子化の検討など、多くのことがありました。なかでも会員除名は規定にはあるものの今まで行われてはきませんでした。が、Newsletter 送付のコスト・名簿管理等の面からいよいよ手をつけずにはいられなくなり、やむなく断行させていただきました。

ホームページ管理などから EL の電子化検討、新人賞応募の仕方までいよいよ本格的にデジタル化し始めております。まだまだこれからですが、本会のさらなる発展につながることを信じております。

年間を通じて事務量が多く、何かと飛び込みの「事件」が発生し、会員の皆様には行き届かぬ点多々あったかとは存じますが、千葉会長のもとで事務局全員一団となってどうにか職務をまっとうすることができたのではないかと思います。これもひとえに、役員と会員の皆様方の温かいご支援とご協力の賜物と事務局一同心より感謝申し上げます。

この4月より、新事務局が次のようなメンバーで発足いたします。

事務局長： 田中智之氏（名古屋大学）

編集委員会・理事会書記：

水野江依子氏（名古屋工業大学）

横越 梓氏（愛知淑徳大学（非常勤））

大会運営委員会・評議員会書記：

中川直志氏（名古屋産業大学）

財務担当・新人賞書記：

若山真幸氏（愛知淑徳大学）

新事務局にも、これまでと同様、ご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

（鈴木、猪又、野村、天沼、佐藤）

---

2007年1月31日発行

編集・発行 日本英語学会

代表者 千葉 修司

発行所 日本英語学会

<http://www.soc.nii.ac.jp/elsj/>

〒166-0003

東京都杉並区高円寺南 2-44-5

桐原書店内

電話 (03) 3314-8181

---